

令和4年度 苅田小だより



元気いっぱい！ 苅っポー



No. 222 令和5年3月10日

夢と希望に向かって
努力する子ども

友達と仲良く
助け合う子ども

約束や決まりを守り
あいさつする子ども



あれから12年 3・11

がんばろう！日本！

～忘れてはならない～

毎年、3月11日が近づくと考えさせられます。

あれからもう12年？まだ12年？…私たちにとっては、「もう12年」かもしれませんが、まだまだ真の復興には遠い、被災された方々にとっては、「まだ12年」なのではないでしょうか。

東日本大震災からまもなく12年が経ちます。あの日の衝撃は今も忘れることができません。職員室に戻ると、他の先生が「先生、大変なことになっています」といってテレビをつけてくれました。そこに映っていたもの…、押し寄せてくる津波に建物や車が押し流されていく光景は、一瞬何が起きているのか、本当の出来事なのかと、現実味がなかったことを覚えています。

襲いかかってきた巨大な津波は町をのみ込み、2万人近くの尊い命を奪い去りました。この世の光景とは思えないさまに、人はなすすべも無く、ただがくぜんとするばかりでした。追い打ちをかけるかのように福島第1原子力発電所の事故が起きました。放射能という見えない敵に人々はおびえることに…。被害の情景は私の想像をはるかに超えたものでした。

大きな大きな爪痕を残した震災でした。日頃からの自発的な訓練が功を奏し、全員が助かった小学校もあれば、マニュアル通りに行動しても、津波から逃れられずに、ほぼ全員が助からなかった小学校もありました。そのような現実を目の当たりにすると、**自然が相手では何が正しくて何が間違っているのかは、誰にも分からない**ということが、見えてきます。だからこそ、できることを一生懸命にしていくことが大切であり、物心両面からの準備が重要であることを教えてくれています。

過去の災害からしっかり学んで教訓を生かしていくことが、私たちのつとめだと思います。

まだ傷の癒えぬ、被害に遭われた方々に、心からのお見舞いを申し上げますとともに、本当の意味での復興をお祈りいたします。

